われわれは遺族の相互扶助、道義の高揚につとめ、平和日本建設に寄与し、戦争の防止、世界恒久平和の確立を期するを信条とする。

いさお新聞

発行所　〒703-8272
岡山市中区奥市3-22　岡山県遺族連盟
電話代表　086-271-7175
ＦＡＸ　086-271-4815
郵便振替岡山01230-9-3532
発行責任者　岸本清美
編集責任者　豊島始男
印刷所　西尾総合印刷株式会社
定価（郵税共）年額1,200円
ホームページ http://izoku-okayama.jp/

県連盟役員・市郡事務担当者合同研修会を開催

岡山県遺族連盟

岡山県遺族連盟では一月二十一日㈮、岡山市北区の「岡山ロイヤルホテル」において平成二十二年度の合同研修会を開催した。

研修会には県連盟役員並びに各市郡遺族連合会事務担当者八十四名が参加し、「遺族運動の現況」などについて畔上和男日本遺族会事務局長の講演を拝聴。講演後、引き続いて合同会議を開催し、会員再調査に伴う平成二十三年度県遺族連盟会費等について協議を行った。

研修会は午前十時三十分に開会。近常寧副会長が開会を宣し、英霊に黙祷を捧げた後、岸本清美会長が挨拶に立った。

岸本会長は「今の政権はおかしくなってしまっています。メディアに躍らされて直ぐさま政策を変えたりするようなことでは駄目です。祖国のために命を捧げた英霊が眠る靖國神社に総理大臣や閣僚が参らない、そんなことではこの国は良くなりません。伝統あるこの国を守るという気概と哲学を持って政治を行わなければ国の将来はありません。このまま四年間、民主党が政権を持ち続けることに大変な危惧を抱いておりますが、今の自民党を含め、泰然自若として堂々とした政治ができる政治家が現れないかという気持ちです。今日は中央の状況、また本県の懸案事項についても研修や協議をいただきますが、皆様方には何時までも若い気持ちで遺族運動に頑張っていただきたい」と挨拶を結んだ。

研修会で挨拶する岸本県連盟会長
(1月21日：岡山ロイヤルホテル)

次いで研修に入り、日本遺族会の畔上和男事務局長から「遺族運動の現況」と題しての講演（講演の要旨は別掲）を拝聴した。

講演終了後、研修会を合同会議とし、先ず「平成二十三年度県遺族連盟会費」について協議を行った。

県遺族連盟会費等の基準となる会員数は、平成十七年に行った会員調査に基づいており、前回調査から既に五年余りが経過した現在、第一種会員（公務扶助料等受給者）の減少や組織率の低下が顕著となっているとの声が各支部遺族会から寄せられている。このため、県遺族連盟では昨年十月一日を基準日として会員の再調査を行った。

会議では現会員数（県下二万八千七百六十八人）、県遺族連盟会費額及び割当額、今回の調査で各支部から報告された会員数（県下二万三千百八十三人・現新比較八〇・六%）等が事務局から報告され、続いて平成二十三年度の県遺族連盟会費に対する意見等を聴取した。

そして、会費額については、県遺族連盟執行部に一任することで了承を得、決定次第、各市郡遺族連合会に対し通知することとした。

次いで「各市郡遺族連合会会員の再調査に伴う県遺族連盟評議員数」についてを上程。事務局から県遺族連盟の役員規約―（市郡連合会の推薦する評議員は、(1)市郡連合会の女性部長、(2)市郡連合会の会員数を基準として会員一〇〇〇名につき一名を推薦）及び、規約に基づく市郡遺族連合会が推薦する評議員数について説明を行い、協議した結果、女性部長のほか各市郡遺族連合会から推薦する評議員数について了承を得た。

そして、本年六月下旬から七月初旬に予定している県遺族連盟役員改選前に各支部遺族会でも順次、役員改選を実施することを要請し、服部剛司副会長が閉会のことばを述べて、午後十二時三十分、合同研修会並びに合同会議を終了した。

畔上事務局長講演

来年はグローバル的に見ると大きな転換点になることが予想されます。アメリカ、そしてロシアにおいても大統領選挙が行われ、隣の中国では胡錦濤体制から習近平体制への移行・準備が始まっています。そのことからも今年はその準備の年とも云えます。

日本遺族会は昨年十一月に全国大会を開催しましたが、その大きな課題の一つが平成二十五年の妻・父母の特別給付金の継続に向けての準備に入るということであります。

また、昨年は天皇陛下御即位二十年の年でありました。その記念式典で天皇陛下が「戦後世代が国民の3／4を占める今日、戦争が忘れ去られようとしています。あの戦争により多くの命が失われ、その尊い犠牲の上に現在の日本の平和と繁栄があります。このことを若い世代に正しく伝えることが日本の将来にとって大切であります」と話されたということでございます。何時もご英霊を思う陛下の御心に接し、私も改めて身を引き締めたところであり、先般の遺族大会のスローガンに〝戦後世代に語り継ぐ〟という項目を掲げました。

また、靖國神社は御創立百四十年を迎え、四つの記念事業を行いました。手水舎及び能楽堂の改修や遊就館収蔵絵画の修復のほか、靖國教場を改築し靖國教場啓照（けいしょう）館としてスタートしました。

靖國神社では、この会館を使用して靖國活性塾を開き、昨年の四月から既に八回の開催を数えま

した。この塾は毎月一回、十八～四十歳までの若い世代に靖國神社問題や歴史観の問題等を勉強してもらうことを目的に開いているもので、東京のみならず全国から若い世代の参加をいただいており、この四月からは第二期の塾生募集が始まるところです。

そして、千鳥ケ淵戦没者墓苑も五十周年を迎えました。ご承知の様に、身元の判らない戦没者のご遺骨を安置する施設であり、現在三十五万八千二百六十七柱のご遺骨が安置されております。

日本遺族会では、この遺骨帰還事業（※遺骨収集団は同帰還団、遺骨収集は同収容に言い方を変更、以下同様）に参加していますが、二十一年度の実績として十一地域から四千九百六十七柱のご遺骨の送還をいたしました。収容されたご遺骨は一旦、厚生労働省に仮安置され、そして身元の判明しないご遺骨を千鳥ケ淵の方へ納骨することになっています。従って遺骨収容数と安置数が必ずしも一致はいたしません。

平成二十二年度の日本遺族会の大きな課題は二つありました。一つは、皆様方をはじめ全国の遺族会からご尽力を賜りました七月の参議院選挙。本会から水落敏栄常任顧問が立候補し、十三万一千六百五十七票、自民党で十位、全体で二十七位という成績で当選することができました。

遺族諸問題について講演する
畔上日本遺族会事務局長

比例選挙は特に名前を書く選挙と云われていますが、集計を行いますと実際に名前を書いたパーセントは二十五％、あと七十五％は全て党名を書いたという結果が出ています。従いまして候補者の名前を浸透させることは非常に難しいという結果となりました。

〝日本遺族会と参議院選挙〟というテーマで、ある大学の先生が分析をしています。昭和三十一年の第四回参議院通常選挙から日本遺族会が推薦している候補は一人も落ちていない、何故なのかと分析を行っています。

その理由は二つあり、一つは公務扶助料等受給者の要望を取り入れたこと。戦後、戦没者の妻には何の補償もありませんでした。妻の皆様方は一家の大黒柱である夫を失い、遺児となった子供を育て、老いてゆく父母を養い家を守ってきました。その皆様方に報いるため公務扶助料支給の実現に大きく寄与したということ。当初は一万円からのスタートでしたが獲得することが出来ました。現在に至るまで紆余曲折がありましたが、その要望にしっかりと応えてきたということであります。

もう一つが、戦没者の兄弟姉妹、遺児の皆様の理解を得られたということであります。

戦後、生活が苦しい中では、ご英霊の顕彰は後回しという状況でありましたが、英霊顕彰はしっかり行わなければならないということで、慰霊巡拝事業や遺骨帰還事業に対する補助金獲得に日本遺族会が応えたということです。

遺骨帰還事業では昭和四十六、翌四十七年、日本遺族会からサイパン・テニアンなどマリアナ諸島に帰還団を派遣しましたが、当時はすべて自費参加でした。そして四十八年から一部補助金が国から出るようになり、現在は全額、国の予算で実施されるようになりました。

この様に英霊顕彰運動等にしっかりと向き合ってきたことが、選挙に一度も負けたことがない要因であるという分析をしています。

平成二十二年度のもう一つの大きなものは〝戦没者遺児による慰霊友好親善事業二十周年記念事業〟である洋上慰霊の実施であります。

船の借り上げだけで一億五千万円、準備は三年前から進めてきましたが、いよいよこの三月に実施する段階となりました。現在六百五十八名の参加申し込みがありますが、海上で戦没された方々の慰霊を第一義に約四百名を目安に実施する予定であります。当初、十二日間の日程で八回、慰霊祭を行う計画でしたが、出来るだけ参加者の要望に沿いたいということもあり、十二回程度の慰霊祭を行うこととなりました。

神戸を出港し、沖縄ではそれぞれの慰霊碑にお参りいただき、台湾からバシー海峡、そしてフィリピン・マニラに入港。当地では大使館・領事等をお招きしての慰霊祭、また学校や病院などを訪問し友好親善を図る予定です。そして、硫黄島から小笠原諸島を通って神戸に帰る十二日間の長丁場の慰霊の旅であります。何しろ洋上でありますので転落等の事故も含め色々心配もございますが、業者共々万全を期すようにしたいと思います。

来年度の遺族処遇改善については、お手元の資料にもあります様に概ね遺族会の要望に沿った回答（政府予算案に計上された処遇改善項目の詳細は本紙一月号に掲載）が得られましたが、特に大幅な予算増額をいただいたのが遺骨帰還事業でございます。

この硫黄島に関する遺骨帰還事業の打ち合わせ会が、菅総理の主催で昨年八月に行われました。民間の意見を聞きたいということで、本会からも二名の関係者が出席し、過去の経緯等について説明を行いました。

日米で激戦が繰り広げられた硫黄島では、日本軍約二万二千名、米軍約七千名の命が失われ、日本においては未だ四十％の遺骨の収容しかできていません。遺骨の収容は国の責務であり、とりわけ硫黄島は日本の領土であり、この硫黄島の収容を皮切りに今後、全戦域に広げて行きたいとの趣旨で硫黄島の特命チームが発足いたしました。

アメリカ国内で、硫黄島の滑走路や摺鉢山付近での集団埋葬の資料が見つかり、昨年の七月から既に収容作業が始まっています。通年ですと沖縄や硫黄島から四十から五十柱のご遺骨の奉還がありますが、昨年十二月の第三回目の作業では二百八十三柱のご遺骨が収容されました。

従来は日本遺族会から年間四回、一回につき四名の収容派遣で他団体を含め二十名程度の派遣でしたが、皆様にお配りしている資料にあります様に二十三年度は六百人という大幅な増員を図り、収容に全力を挙げることになっています。

この収容作業に参加した本会役員からは、従来の関係ご遺族だけではなく広く遺族会から参加者

皇居内濠を望む静かな九段
ご婚礼／宴集会／ご宿泊／お食事／大ホール

※ご遺族様には、
特別割引がございます。
●シングル……￥ 7,140～
●ツ イ ン……￥12,600～
（税込）

九段会館
〒102-0074 東京都千代田区九段南1-6-5
☎ 03（3261）5521
●地下鉄 東西線・新宿線・半蔵門線（九段下駅）徒歩１分
●JR東京駅より（車）５分

URL http://www.kudankaikan.or.jp

候補者推薦について
意見を聴取
岡山県遺族政治連盟

岡山県遺族政治連盟は一月二十一日㈮、岡山市内で合同会議を開催し、本年四月十日に行われる岡山県議会議員選挙の立候補予定者に対する同連盟の推薦について協議を行った。会議では既に推薦申請が出されている候補者も含め、再度、各支部遺族会の意見・要望を聴取し推薦候補者を決定することとした。

また、同連盟からは会長である岸本清美氏が津山市・苫田郡選挙区から、副会長の浅野實氏が真庭市・真庭郡選挙区から立候補を予定しており、会議では重点候補者として全力で支援することを確認した。

を募る様、特に若い世代の参加を求めなければならないとの話がありました。本会としても従来の遺児の皆様に加えて、孫や曾孫の世代からの参加を推進する方針でありますので、全国の遺族会にはご協力をお願いしたい。

英霊顕彰について色々お話しをしましたが、二年程前に日本遺族会で、戦後生まれの国会議員について調べました。その当時、七百二十二名中四百十四名、五十七％の方々が戦後生まれということで、本会では全国の遺族会に対し、東京にあっては靖國神社に、地方にあっては護國神社にお参りする様、各議員に要請してほしいとのお願いをしました。その後、超党派の国会議員で構成する「みんなで靖國神社に参拝する国会議員の会」での参拝が大幅に増えております。民主党政権となり参拝議員の減少を心配しましたが、その民主党議員の参拝も少し増えており安心しております。

そして、新たに戦後生まれの国会議員の調査を行いましたが、菅政権になって七百二十二名中五百五十七名、七十七％に増えています。昨年の参院選後は実に五百九十三名、国会議員の八十二％が戦後生まれという結果となりました。この先生方に英霊顕彰をしっかり伝えていかなければなりません。

昨年末の全国大会後、国会に陳情を行いましたが、国会議員の先生方の中には遺族会の活動について余り理解していない方もいるとの報告もございました。このため、本会では機関紙〝日本遺族通信〟を先ず自民党所属議員に配布し、遺族会の活動についての情報を発信することを始めました。いずれは党派を超えて情報の発信を行いたいと考えています。

靖國神社については色々な考えがありますが、基本のスタンスは一つだと思います。是非、このことを伝えて行かなければなりません。

また、女性部は一昨年、昨年と一泊研修会を行いましたが、その大きな課題は何れも後継者の育成です。お配りしている資料は終戦六十周年特別委員会が答申した組織対策の抜粋ですが、研修会でも組織の高齢化に伴う会員の減少と会費の問題が同じように提起されました。

一昨年、四十七都道府県の内、遺児の女性部長が十三名。昨年は二十名になりましたが、それ以来、少しずつ遺児に交代しています。しかし、中央には出られないが地元では、まだまだ頑張っているお母さん方が大勢おられます。研修会では、そのお母さん方から子供さんへ、更には嫁いでいる娘さんへ再度、遺族運動への参加を呼びかけてほしいとの声がありました。

もう一つは、慰霊友好親善事業参加者の輪を広げようということ。まだまだ会員になっていない方が大勢おられます。事業参加者の約半数が会員でない方です。この参加を機会に会員になっていただくように働きかけること。毎年二～三月に慰霊友好親善事業に行った方を集めて会を開いている遺族会もあります。そういう地道な積み重ねが会員を広げて行く一つの方法かと思います。

そして、まだまだ輪を広げて行かなければならないのは、やはり小中学生の慰霊行事への参加であります。三年前、岡山市の中学生、三校約百六十名が参加したという話を伺いました。このことを各地方に出向いた時にお話ししていますが、そういう輪がだんだん広がって参りまして、広島市の追悼式では幼稚園から高校生位のガールスカウトのメンバーが献花を行いました。また、山形県の鶴岡では中学生が代表してメッセージを読み上げ、戦没者の妻と孫が一緒に献花を行うなど輪が次第に広がっております。岡山県からの強い要望がありまして、若い人たちの追悼式等への参加は日本遺族会の大会スローガンにも掲げ、力を入れて推進しているところであります。

また、今日は皆様方に九段会館のメンバーズカードをお配りしています。これは遺族会への加入を進める上でよく聞くことですが、〝遺族会に入って何かメリットがあるのか〟ということです。各遺族会においても考えておられると思いますが、〝九段会館を利用すると会員割引がありますよ〟というのが、そのメンバーズカードです。

遺族の証というのは以前からありましたが、地方のご遺族は意外と九段会館を知らない方がおられる、浸透していなかったことをお聞きし、この新しいカードを作った次第です。会員の家族でも、このカードがあれば東京に来たときに安く泊まれますよと知っていただく一つの足掛かり、会員拡大の手助けの意味もありまして作りましたので、是非ご利用いただきたい。

ある会合で、日本遺族会はもっと遺族会の活動をPRしなければいけないと言われましたが、このことは充分心掛けて行かなければなりません。慰霊友好親善事業においては、二年前から千八百四十市町村に文書を発送し、それぞれの広報紙に掲載していただく様にお願いをしています。

また、昨年の女性部の幹事会で、八月十五日の戦没者追悼式の放映時間が短いという意見が出ました。幹事会終了後、直ちに女性部正副部長並びに幹事、日本遺族会の副会長らが共にNHKを訪問し、戦争の記憶を風化させないためにも放送時間枠の拡大をお願いしました。更に各地のNHK放送局への陳情も行わなくてはならないとのご指摘もございます。今年は、それに向けての準備をしなければなりません。

私共は地方の皆様方のご意見・ご要望を伺いながら遺族運動に取り組んで行きたいと思います。皆様方にも末端の方々まで日本遺族会の活動をお伝えしていただきます様お願いしまして、講演を終わらせていただきます。

慰霊のことば

浅口市金光町
薪先順司の遺児
三宅博子

お父さん！　まさか私が、貴男が亡くなったこの地に立てるとは夢にも思っていませんでした。

昨年十一月、護國神社に参拝した際にいただいた〝いさお新聞〟を開いた途端、ペリリュー島の文字が目に飛び込んできたのです。戦跡慰霊巡拝の案内でした。これは神様のお計らいだと強く感じ、「何としても参加したい、参加しよう」と即座に決心しました。幸い家族の後押しもあって夢が実現したのです。

博子は父の温もりを知

りません。でも「出征中に私が生まれることを知って大変喜び、名前を付けて送ってくれた」と母から聞き、父の大きな愛を感じました。

南の島で、最愛の妻や我が子を想いながら、銃弾に斃れたお父さんの無念さを思うと胸が詰まります。お父さんの後を追うように玉砕された人々や戦死された多くの方々の犠牲の上に今の日本の繁栄があることを決して忘れてはなりません。

戦後、食料の乏しい中、必死で私を守ってくれた母は今年九十三歳になります。三人の子供たちも今や親となり、五人の孫も皆大きく成長し勉学に励んでいます。今後も母を大切にし、お父さんの分まで長生きをしてほしいと願っています。平和な世界が続きます様お護り下さい。

この地で亡くなられた方々のご冥福を心よりお祈りいたします。

平成23年1月25日

あとがき――

一月二十四日から二十八日の日程で行われたパラオ諸島戦跡慰霊巡拝の旅に参加させていただき、十一名の方々と各所で行われた慰霊祭に臨み、また現地の小学校も訪問しました。

ペリリュー島では、父が亡くなったと思われるオレンジビーチで慰霊祭を執り行っていただき、積年の想いが叶い父を偲ぶことができました。

巡拝中、父の所属する部隊は〝千人洞窟〟にいたことが判り、その洞窟でも慰霊祭を行っていただきました。このような大切な事実を知り得たのは事前に入念な調査をして下さいました遺族連盟の方々、現地で御世話をして下さいました菊池さん（ガイド）のお陰と深く深く感謝いたします。

平成23年度戦没者遺骨帰還事業

硫黄島など13地域の参加者募集

日本遺族会では、政府主催の平成二十三年度戦没者遺骨帰還事業への参加者を募集しています。

平成二十三年度の帰還事業は十三地域（別掲）が政府予算案に計上されていますが、硫黄島特別対策事業及び遺骨帰還事業関係費が大幅に増額され、今後、事業の拡大が見込まれることから、日本遺族会では例年より早期に希望者のとりまとめを行うこととなりました。

なお、実施地域及び期間・募集人員等の詳細は決定次第、政府から発表されますが、日本遺族会に依頼されない地域がある場合もありますので予めご了解いただきたい。

参加のお申し込みは県遺族連盟まで。

▼実施予定地域

①フィリピン、②東部ニューギニア、③ビスマーク・ソロモン諸島、④パラオ、⑤インドネシア、⑥インド、⑦沖縄、⑧硫黄島、⑨モンゴル、⑩ザバイカル地方、⑪アムール州、⑫沿海地方、⑬イルクーツク州

※硫黄島については、昨年八月に「硫黄島における遺骨収容のための特命チーム」が政府内に設置され集中的な遺骨収容事業が検討されています。なかでも収容派遣人員は、遺族、戦友、旧島民の増員はもとより、学生を含む若者を加えて（学生が参加しやすい夏期・春期の休暇期間中に多くの参加をお願いする）年十二回の延べ六百名の派遣を予定しています。

このため、日本遺族会では硫黄島関係遺族に限らず広く参加者を募ることとし、英霊顕彰の継承の観点から戦没者の孫、曾孫等の参加を推進することになりましたのでご協力をお願いします。

船上からペリリュー島を望む（１月26日）

父の慰霊祭に臨んだ三宅さん（１月25日：ペリリュー島オレンジビーチ）

遺族会の動き

平成二十三年一月行事表

1日　歳旦祭（県護國神社）
3日　元始祭（県護國神社）
5日　逢沢一郎「年始会」（Hグランヴィア岡山）
8日　石井正弘新年祝賀会（岡山プラザH）
9日　岡山市瀬戸遺族連合会護國神社正式参拝・新年互礼会（倉敷市内）
13日　倉敷市遺族連合協議会新年互礼会（倉敷市役所）
16日　北方領土返還要求県民会議幹事会（岡山商工会議所）
17日　県護國神社崇敬者大総代・総代合同会議（県護國神社）
19日　平沼赳夫県南新春懇談会（Hグランヴィア岡山）
21日　新見市遺族連合会新年互礼会（新見市内）
24日　岡山市遺族連合会役員会（妹尾地域C）
26日　県連盟主催外国地域戦跡慰霊巡拝（パラオ諸島）四泊五日
27日　岡山市西大寺戦没者慰霊祭（県護國神社）
29日　岡山市西大寺遺族連合会新年互礼会（瀬戸内市内）
自民党岡山県連総務会・選挙対策委員会合同会議（岡山プラザH）
日遺支部事務局長会議（九段会館）
日遺女性部幹事会（九段会館）
日遺支部女性部長会議（九段会館）
瀬戸内市遺族連合会新年互礼会（瀬戸内市内）
あべ俊子を囲む新春の集い（津山鶴山H）

平成二十三年二月行事表

6日　総社市遺族連合会新年会・叙勲受章祝賀会（総社市内）
7日　県連盟女性部平成22年度第二回研修会（岡山ロイヤルH）
11日　北方領土返還要求県民大会（天神山文化プラザ）
建国記念日・紀元祭（県護國神社）
13日　岸本清美を励ます会・事務所開き（津山市内）
15日　県連盟正副会長・常任理事合同会議（県連盟会議室）
24日　日遺理事会・評議員会（九段会館）
日遺政理事会・総会（九段会館）
25日　日遺会長表彰式（九段会館）
日遺支部事務局長会議（九段会館）
都道府県本部事務局長会議（九段会館）
日遺支部事務局職員共済会理事・評議員合同会議（九段会館）

平成二十三年三月行事表

2日　倉敷市遺族連合協議会靖國神社団参・国会陳情（東京方面）二泊三日
8日　瀬戸内市遺族連合会女性部長会議（長船町内）
15日　美作市戦没者慰霊祭（県護國神社）
27日　岡山市南遺族連合会総会（興除支所）